

組織の活性化に一考

「はたらく」の語源、本当の意味

言葉は縄文時代か、弥生時代に生まれたという

- ・人々は50人から100人位の村を作り、
- ・ある人はお米を作り、
- ・ある人は家を建てるために木を切り、
- ・ある人は獣を狩りに行き、
- ・ある人は木の実を取りにいき、
- ・ある人は土をこねて土器を作る…

※村のひとりひとりがしっかりと役割を持ち「はたらく」ことで、
※みんなで支えあい、みんなが不自由なく暮らしていました。

お米を作る → 稲作

獣を捕りにいく → 狩り

それぞれの動きに対しての「言葉」作った

全部ひっくるめた共通の感覚にいきあたった。

それら全部を「言葉」にしたい…



<http://cysolutions.jp>

日本人の祖先は、そこに、単純に「人が動く」という感覚ではなく、
「まわりの人たちを楽にする」という感覚

人はひとりで生きているのではない。
周りの人達に

- ・恩恵を受け、だからこそ自分もなにか
- ・貢献をしながら、互いに支えあい、そうやって成り立つ。

働く

日本人の仕事感、
価値観への夢とロマン

『はた』を『らく』にする…
『はたらく』
という「言葉」は生まれた。

はた・らく = 働く